

パモ酸ピランテル 100mg 錠

溶出試験 本品 1 個をとり、試験液に日本薬局方崩壊試験法の第 1 液 900mL を用い、溶出試験法第 2 法により、毎分 50 回転で試験を行う。溶出試験開始 60 分後、溶出液 20mL 以上をとり、孔径 0.45 μ m 以下のメンブランフィルターでろ過する。初めのろ液 10mL を除き、次のろ液 2mL を正確に量り、塩酸のメタノール溶液(9→1000)を加えて正確に 20mL とし、試料溶液とする。

別にパモ酸ピランテル標準品を 105℃で 2 時間乾燥し、その約 0.026g を精密に量り、N,N-ジメチルホルムアミド 25mL に溶解し、さらに塩酸のメタノール溶液(9→1000)を加えて正確に 100mL とする。この液 2mL を正確に量り、塩酸のメタノール溶液(9→1000)を加えて正確に 20mL とし、標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、塩酸のメタノール溶液(9→1000)を対照とし、紫外可視吸光度測定法により試験を行い、波長 316nm における吸光度 A_T 及び A_S を測定する。

本品の 60 分間の溶出率が 80%以上のときは適合する。

ピランテル ($C_{11}H_{14}N_2S$) の表示量に対する溶出率(%)

$$= W_S \times \frac{A_T}{A_S} \times \frac{1}{C} \times 900 \times 0.3469$$

W_S : パモ酸ピランテル標準品の量(mg)

C : 1 錠中のピランテル ($C_{11}H_{14}N_2S$) の表示量(mg)

パモ酸ピランテル標準品；パモ酸ピランテル（日局）。ただし、乾燥したものを定量するとき、パモ酸ピランテル($C_{11}H_{14}N_2S \cdot C_{23}H_{16}O_6$) 99.0%以上を含むもの。

パモ酸ピランテル 100mg/g ドライシロップ

溶出試験 本品約 1g を精密に量り，試験液にポリソルベート 80 の崩壊試験の第 1 液溶液（1→10000）900mL を用い，溶出試験法第 2 法により，毎分 100 回転で試験を行う．溶出試験開始 60 分後，溶出液 20mL 以上をとり，孔径 0.45μm 以下のメンブランフィルターでろ過する．初めのろ液 10mL を除き，次のろ液 2mL を正確に量り，塩酸のメタノール溶液(9→1000)を加えて正確に 20mL とし，試料溶液とする．

別にパモ酸ピランテル標準品を 105℃で 2 時間乾燥し，その約 0.026g を精密に量り，N,N-ジメチルホルムアミド 25mL に溶解し，さらに塩酸のメタノール溶液(9→1000)を加えて正確に 100mL とする．この液 2mL を正確に量り，塩酸のメタノール溶液(9→1000)を加えて正確に 20mL とし，標準溶液とする．

試料溶液及び標準溶液につき，塩酸のメタノール溶液(9→1000)を対照とし，紫外可視吸光度測定法により試験を行い，波長 316nm における吸光度 A_T 及び A_S を測定する．

本品の 60 分間の溶出率が 80%以上のときは適合とする．

ピランテル($C_{11}H_{14}N_2S$) の表示量に対する溶出率(%)

$$= \frac{W_S}{W_T} \times \frac{A_T}{A_S} \times \frac{1}{C} \times 900 \times 0.3469$$

W_S : パモ酸ピランテル標準品の量(mg)

W_T : パモ酸ピランテルドライシロップの秤取量(g)

C : 1g 中のピランテル($C_{11}H_{14}N_2S$)の表示量(mg)

パモ酸ピランテル標準品；パモ酸ピランテル（日局）．ただし，乾燥したものを定量するとき，パモ酸ピランテル($C_{11}H_{14}N_2S \cdot C_{23}H_{16}O_6$) 99.0%以上を含むもの．